

第2回「ほねほね」だより 駿河ほねほね団



もくもくと作業を続ける顧問（中央）と団員

初回のレポートからはや9ヶ月。ほねほね団の活動も軌道に乗り、現在までに製作した骨格標本は「本誌35号」に掲載したヘビ3体、トリ4体に加え、アライグマ全身骨格2体、アライグマ頭骨50個、ハクビシン頭骨3個、ムササビ1体、ツキノワグマ1体、ノウサギ1体、ニホンザル1体に増えました。大量にあるアライグマの骨格標本は、市内のアライグマ分布調査で捕獲された遺体を骨格標本にしたものです。この大量の骨格標本を作製してきたおかげで、私たちの標本作製技術は鍛えられ、今ではクマやイノシシのような大型哺乳類の処理も、自分たちでも驚くほど手際が良くなりました。

最近ほねほね団の活動は、これまでの月2～3回に加え、月に1回、日曜日にも活動することにしました。また、その活動も骨格標本の作製のみならず、毛皮の作製も行なっています。毛皮の作製では、毛並を良い状態で保つコツや、しなやかになるように仕上げるための工夫を、顧問と部員が試行錯誤し、今では毛並みをつや良く仕上げる事ができるようになってきています。

私たちが骨格標本にする動物のほとんどは、駆除されたり、事故で命を落としたりなど、人間の都合により死んだ動物達です。ただ、遺体を処分してしまっただけではそれで終わりですが、標本にすることにより活用することができます。標本にされる遺体は次々にやってきます。これからも遺体の標本作成を続け、もっと状態の良い標本を作れるよう技術を上げていきたいです。



アライグマ調査で捕獲された静岡市清水区（一部他の地域を含む）のアライグマの頭骨。約三ヶ月間で50頭捕獲された。



震にかかって死んでいたツキノワグマ（オス）



現在製作中のイノシシの骨格標本。